

副大臣級会議

海外からの人材・資金を呼び込むためのタスクフォースについての意見

- 1) 一部のビザ、特に「経営・管理」ビザの取得条件が最近厳格化されたことは、外国投資家にとって好意的には受け止められておらず、外国投資を支える人材を誘致しようとする方針とは矛盾しているように思われます。これら一部のビザ取得条件の厳格化による直接的な影響は、現時点ではなお見極める必要がありますが、当該基準の適用範囲を明確化または具体化し、とりわけ取得までの期間を確認することが重要であると考えます。
- 2) 多くの業種、特にサービス業においては、リモートワークが可能であり、むしろ望ましい場合もあります。これにより、人材が自国に居住したまま業務に従事することが可能となり、ビザに関する問題を回避することができます。このような採用形態について、日本企業に対してより積極的に周知・促進することが有用かもしれません。
- 3) エネルギーは極めて重要な課題です。現在のホルムズ海峡における危機は、サプライチェーンの脆弱性および資源の希少性を示しています。現在、日本は石油備蓄を取り崩していますが、それによって輸入コストの上昇が妨げられるわけではありません。再生可能エネルギーは発電量に限界があり、今後の投資の将来を確保するためには、これまで以上に原子力が不可欠です。特に、AI の発展にとって戦略的課題であるデータセンター向けの電力確保において、その重要性は一層高まっています。

ルフェーブル・ペルティエ・エ・アソシエ外国法事務弁護士法人
マネージングパートナー
リヨネル・ヴァンサン